

第51回役員会 議事要録

日 時 平成25年12月20日（金）15：00～17：00

場 所 北方キャンパス本館E-701会議室

出席者 <委員>石原理事長、近藤副理事長（学長）、利島理事、片山理事、
松尾理事（副学長）、梶原理事（副学長）、井村理事（事務局長）、
<オブザーバー>中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長

配布資料

議 案

第1号 (タイ)タマサート大学との学生交換留学協定締結について

第2号 (仮称)国際交流会館の整備の着手について

報 告

- 1 主な入試広報イベントの実施結果について
- 2 教員の採用について
- 3 法人評価委員会の評価結果(平成24年度)について
- 4 平成25年度卒業予定者の就職内定状況等について
- 5 推薦入試の結果及び今後の入試予定について
- 6 北九州市立大学の「認知度向上の取組」及び創立70周年記念事業について
- 7 大学の地域貢献度ランキングについて
- 8 その他

第1号議案「(タイ)タマサート大学との学生交換留学協定締結について」

<質疑応答>

- 2点お伺いしたい。単位が認定可能というのはどういうことかというのが1点と、もう1点は本学からの奨学金というのは1ターム当たりかということである。
- まず認定可能というのは、交換協定に基づき留学先の大学で取得した単位も認定され、卒業単位に含まれるということである。
- 基本的に認定するのは教授会になる。
- 例えば学生が休学をして私費留学等をした場合は単位認定しないが、こちらは本学の正規の留学なので、本学で学んだと同等に扱うということである。
- 交換留学に行く際の学生の一番の心配事はお金と、4年間でちゃんと卒業できるかということだ。先方のプログラムやレベルもある程度事前に検証しているので、本来こちらで取るような科目と読みかえがきくものについては卒業単位の中に組み込むことで、学生に安心感を与えている。奨学金についてであるが、日本学生支援機構からの奨学金は先方から毎年ある程度支給人数が決められてくる。その人数の範囲内で毎月7万円程度の高額な奨学金を支給している。それに漏れた学生についても、一度限りではあるが、国際交流基金から10万円を支給する予定である。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第2号議案「(仮称)国際交流会館の整備の着手について」

<質疑応答>

- 築44年ということで大変古い建物だが、改修のとき1点気になるのが上水道である。特に上水道の配管取りかえなどはここに入っていないが、どこかの項目に入ることになるのか。
- 4番の事業費のところの(1)表に内訳がついているが、この表の建物改修費1億1,400万の中にガス、水道等の管工事を全て含めている。
- どのぐらい入っているか。内装、外装、防水、外柵、耐震補強、どこにも水道、ガスは書いていない。
- 細かく言うと、この中に建築工事、耐震工事、外壁工事、電気工事、機械設備、ガス設備工事、空調工事、外柵工事、共通費全て入れ込んで1億1,400万円としている。室内配管等で大体1,200万円ほど見込んでいる。
- これは留学生全般について言えることだと思うのだが、国際交流会館を造るのであれば、北九州市立大学だし、これを一つのきっかけに北九州市に対する賛同者をつくっていくことも考えていったらどうか。そういうことを一つの政策にして、例えば北九州市は今、環境事業を売り込んでいるが、この大学にも環境の専門学部があるので、その留学生が非常に良いファンになってくれたら、自国に帰ってその国で社会的な地位について日本から働きかけやすいのではと思う。そういうようなこともちょっと考慮に入れて面倒を見るとか。どうせ金を使うのなら、何かそういうようなことを踏まえて、留学生対策を考えてみたらどうかと思った。
- ご指摘のとおり、例えば国際環境工学部ができて13年だが、同窓会組織がない。それと、海外から留学し、帰国した後の連絡等のツールもまだ整備されていないので、是非これらの整備をしていくべきかと考えている。また、市内の企業等にも、こういった会館の整備への寄付について、事務局職員等をお願いしていきたいと考えている。会館名を(仮称)と書いているのは、例えばネーミングライツとして、同窓会であれば北友会の名称もつけられないかどうかを含めての仮称ということで考えているので、今ご指摘の点も踏まえて整備を進めていきたい。留学生と日本人が一緒になることで、ネットワークを今後広げられるような施策を実施していきたいと考えている。
- 現在のひびきのキャンパス海外留学生の宿舎は個室なのか。
- そうである。
- 部屋の間取りはどうなっているか。
- 1Kである。ひびきのキャンパスにある留学生会館の仕様は、ルームシェア型ではなく18㎡の単身の完全個室、これが50戸ある。それから世帯用の部屋は38㎡で、2戸ある。
- 家賃設定はどうなっているか。
- 家賃は単身用が月額5,000円、そのほか共益費が月額4,000円である。また、世帯用は1万500円で、共益費が月額4,000円である。
- 国際交流会館は、1カ月2万5,000円の家賃ということか。
- その予定である。
- ルームシェアについて、1つ心配したのは、最近のアジアからの留学生は大変裕福で、ルームシェアはイメージでは良いが一緒に暮らすと意外にいろいろ大変なことがあって敬遠するのではないか。私立大学は寮も個室で完全完備をPRしている。留学生のニーズは既に調べているか。
- 特別科目等履修生が、北方には現在32名いる。これは1年間の交換留学生の数である。主に入居するのはこの学生と考えている。基本的にこれはどこの国に行ってもほぼ一緒だが、交換留学生については受け入れ先の大学が指定した宿舎に入といったルールになっているので、特別の事情がない限りは、こちらに入居してもらうことを考えている。近隣の家賃も少し調べているが、ひびきのキャンパス周辺は地理的な事情もあり非常に安いのだが、九州国際大学で約3万円前後、西日本工業大学で2万円というところなので、2万5千円は決して極端に高い額ではないと考えている。
- 先ほども話に出たように、秋田の国際教養大学が非常に多くの留学生を受け入れており、全寮制である。しかも個室ではなく日本人学生と留学生が部屋をシェアしている。ルームシェアによって、お互いに日本語、英語を教え合う等、プラスの部分が多いと聞いている。本学においても舎監、アドバイザーの学生あるいは大学院生等の補助で、機能するのではないか。
- 舎監はいるのか。
- 想定していたほうが良いのではないかと考えている。
- 改修費を非常に心配しているのもう一回精査されたほうが良いと思う。同様の事例をやった

が、大体倍ぐらゐの費用がかかるケースが非常に多いので、きちんと改修費について調べてほしい。また、お尋ねしたいのは、財産の取り扱いについてである。1階のテナントにコンビニを入居させるなどで収益を上げることができると思うが、通常と同じ資産の中に入れてしまうと制約が多いのではないか。

- その辺は今後不動産の専門家と調整しながら行いたい、赤字を出すわけにはいかないため、柔軟にできるように対応したいと考えている。
- 決定していないのなら、自由に動けるような対応策を全体の中に入れ込まないといけない。
- ご承知のように本学は、北九州市が土地や建物など全額出資している。公認会計士と監査法人とは協議していないが、国際交流会館についてはそれ以外の財産ということで、取得をした場合には別途の財産と考えている。改築等をして1階にコンビニを入れるというのも道路に面していることからその可能性があるし、あるいは駐車場として利用し収益を上げる可能性もあるので、別途の財産ということで考えていきたいと思っている。校舎とか図書館などは大学設置基準上の必置施設だが、この留学生会館については必置施設ではないので、そういった観点から財産の取り扱いを検討していきたい。
- 入居後はどこかが管理するのか、自主的に運営させるのか。学生のことだから、いろんなことがあるかもしれないが、どこかがきちんと管理する形になるのか。
- 一応現在は管理会社を入れるという形で考えている。
- それでは、この収支の中にはまだ入っていないのか。
- まだ経費に計上していない。
- 一般的に不動産管理会社の年間の管理費用というのは当額の3%から5%というふうに言われている。この場合には留学生等の受け入れという、対象が非常に限られているため、管理会社については3%以下ぐらいで交渉できる余地があると考えている。
- 管理とは何をするのか。いわゆる施設管理や清掃など様々なことが想定される。
- 基本的に今お話ししているのは、清掃と何かあった場合の補修繕等の対応である。家賃の回収等は大学側で行うと考えている。
- 清掃を学生にやらせたらどうか。
- サークル会館を見ていただければわかるように、難しい。
- 草取りなどはどうか。
- 学生に一斉に号令をかけて実施することも可能かと思うが、日常の清掃がなかなか行き届かない。
- 留学生特別科目等履修の32名はひびきのキャンパスの数字ではなくて、北方キャンパスのみの数字か。
- これは全て北方キャンパスの数字である。
- この学生達は、下宿を借りているのか。
- 国際教育交流センターで斡旋している。
- その家賃はこちらで援助しているのか。
- 家賃2万5,000円については学生が支払っている。敷金や入退去の際の清掃料、鍵の取りかえ料等を大学側で負担している。
- 年約200万円の補助金の節減とあるが、金額の根拠は何か。
- 先ほど申し上げた入退去の際の清掃費や敷金に当たる部分である。
- 年1回か。
- そうである
- 国際交流会館のルームシェアの日本人1名はどうやって選考するのか。
- まだ詳細は検討していないが、例えば現在北九州グローバルパイオニアを履修している学生の中で希望者を募って選考する方法も考えられる。
- 希望者がでてくるか。
- 他大学では希望者が殺到するという話を聞いている。
- 補足すると、留学生たちと日常的に交流ができ、家賃も近隣のワンルームマンションに比べて低目に抑えているので希望する学生はいると考えている。
- 3名でシェアリングをやるというのは、近くでは福岡女子大学でやっているような形で、教育の場の延長となっている。
- 他大学の研究も必要である。立命館アジア太平洋大学は2人一部屋で、日本人と留学生が相部

屋になる。一つ参考にしてはどうか。

- 部屋は全てフローリングで完全個室となるのか。
- そうである。どこも同じような状況である。
- 目的積立金について、詳細はどうなっているか。
- 先ほど述べたように教育研究の質の充実に充てる目的積立金ということで本学の年間の予算のうち、未執行分について積み立てをしている。現在約7億8,000万円あるが、市の財政が厳しいことから標準運営費交付金が年々減っており、積み立てから取り崩しをして予算を計上している。平成26年度予算では約3億円を取り崩して予算計上しなければならない。本学の支出の状況としては人件費が約50%を占めており、義務的な経費に充てるためにも取り崩さざるを得ないという状況である。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告1「主な入試広報イベントの実施結果について」

<質疑応答>なし

報告2「教員の採用について」

<質疑応答>なし

報告3「法人評価委員会の評価結果(平成24年度)について」

<質疑応答>

- 高い評価を得ていることに、改めて素晴らしいと思うが、1点気になるのは、マンパワーの問題である。どのような仕組みでこれだけ事業を広げてマンパワーを確保しているのか。多分この組織もマンパワーが問題となり、事業拡大が難しくなっている。それを本学では順調に実施している点につき、ご教示いただきたい。
- 評価室の立場から特に申し上げることはないが、各事業に対して、できる限り外部資金を活用している。事業の採択で特任の先生を招聘、あるいはその期間事務職員を採用したりしてマンパワーは確保していると考えている。
- 事務局職員の体制について、例えばグローバル化の推進についてはTOEICの点数が高く有能な職員をカウンセラー職へ任用替えしたり、適正な配置転換を実施するなどして、適宜見直している。一方で、若干残業等も増えているという状況もあったため、できるだけ時間外勤務を減らすように努力しながら体制維持している。今プロパー職員を順次増員し、市からの派遣職員を減らしているが、プロパー職員の育成についても、事務局の幹部職員で一生懸命取り組んでいるところである。
- 現在、指摘のとおり非常に多くの事業を実施している。重要なことは事業の選択と集中である。年度計画をベースとして、プロジェクトという形で時限的なものを組みこんでいるが、その際、学長、副学長をトップにし、事務局も参加のうえ集中的に事業を実施している。そして方向性がまとまった際にはプロジェクトを終結させ、恒常的な委員会のほうに移管していくという、効率的なやり方で実施している。それでも教職員にはかなりの負担がかかっていると考えている。市からの派遣職員の人数は限られているため、その範囲内でできることを実施しており、資金に関しては外部資金等で特任教員等を活用し、さらに学生も活用している。

報告4「平成25年度卒業予定者の就職内定状況等について」

<質疑応答>なし

報告5 「推薦入試の結果及び今後の入試予定について」

<質疑応答>

- 推薦入学者の中で、北九州市内及び福岡県内の割合はどれぐらいか。
- 合格者の412名うち市内出身者が169名で41%、それから北九州市内を含む福岡県では236名で全体の57%である。
- 例年並みか。
- 例年大体こういった数字で推移している。
- 一番遠いところはどの辺から来ているか。
- 今回の合格者の中では、北海道が1名いる。その次が茨城で1名いる。

報告6 「北九州市立大学の「認知度向上の取組」及び創立70周年記念事業について」

<質疑応答>

- 近年ランキングが上昇しているのは、広報の力が大きいのではないか。
- 認知度向上は非常に重要である。ロゴマークも結構だけでも中身できちっと勝負したいと思うが、いかがか。
- 朝日新聞社の大学ランキングは、一千以上の高校の進路指導担当者宛てに直接にアンケート調査をかけており、全国で順番づけされるものを九州、あるいは公立大学で見たときということで整理し直したのがこの資料である。第1期中期計画のちょうど中間ぐらいから本学がそれぞれランクインをしてきている状況で、法人化以降の取り組みの一つの成果として我々も把握している。それに対して日経BPの調査は性質が異なる。インターネットを使った調査であり、九州、山口、対象の大学を55校に絞っているため、広く一般の方々がどの程度認識しているかという点で朝日ランキングと大きな違いがある。ただ、我々が残念だと思っているのは、西南学院大学、福岡大学、九州工業大学等の偏差値が本学と10ポイント程度差をつけている点であり、本学の取り組みの内容が課題だと思っている。ただ、国公立大学の中ではトップである。現在、将来のビジョンをどういうふうに描いていくかということの取りかかりの調査の段階であり、今後少しでもポイントが上昇するように取り組んでいきたいと考えている。
- 認知度向上は70周年とは異なるのか。
- 将来ビジョンなど共用するところがある。
- 70周年は一つの区切りのイベントであり、認知度向上というのは本学が将来何を目指してどういう大学にするかということではないのか。
- 創立100年を目指して認知度向上プロジェクトを実施している中で、その通過点が70周年という位置づけである。

報告7 「大学の地域貢献度について」

<質疑応答>なし

報告8 「その他」

<質疑応答>なし